

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：37503

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H04390

研究課題名(和文) ポスト植民地における女性の身体 東南アジアとアフリカの「女性器切除」

研究課題名(英文) The Female Body in Post-colonies: "Female Genital Mutilation" in Southeast Asia and Africa

研究代表者

井口 由布 (Iguchi, Yufu)

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授

研究者番号：80412815

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は女性器切除実践の現状と人々の意識の研究を通して、女性器切除をポスト植民地における女性身体とセクシュアリティの支配に関する現代問題として再考することである。本研究では女性器切除のマイナー地域とされる東南アジア各地にて質的調査と量的調査を実施し、アフリカにおける最新の研究と総合し比較研究を行った。東南アジアはアフリカ中心の国際的な女性器切除言説の外部に位置づけられており、彼らにとって女性器切除は生活に埋め込まれて意識化されない宗教実践である。他方で衛生概念など近代医学の用語によって実践を説明する側面もあり、東南アジアの現代は国際的女性器切除問題と接合する過程ともみえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義と社会的意義は以下の4点である。第一に本研究は、実施率の高さに関わらず研究蓄積のない東南アジアにおいて女性器切除の現地調査を行った。特にカンボジアとベトナムでは世界初の学術的調査を実施し、国際学会で成果報告をした。第二は、女性器切除問題における「人権」対「伝統」という対立の隘路を、近代医学における女性の身体管理という視点から再考することで超克しようとした点である。第三に、公衆衛生学、人類学、ジェンダー研究など異なる分野の専門家達との国際共同研究により研究を推進した。第四に、アフリカにおける女性器切除研究者との協働により、女性器切除研究の脱アフリカ中心主義を図った。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to reconsider FGM/C as a contemporary issue concerning the control of women's bodies and sexuality in post-colonies through a study of the current practice of "female genital mutilation/cutting (FGM/C)" and people's attitudes toward it. This study conducted qualitative and quantitative research in Southeast Asia, which is considered a minor area of FGM/C, and synthesized and compared it with the latest research in Africa. It turned out that Southeast Asia is positioned outside the African-centered international FGM/C discourse, and for them, FGM/C is a religious and unconscious practice that is embedded in their daily lives. On the other hand, the study showed that the local people explained the practice in terms of modern medicine, such as the concepts of sexuality and hygiene, which can be seen as a process of their incorporation into the international FGM/C issues, including the reconstruction of the female body through modern medicine.

研究分野：ジェンダー研究

キーワード：女性器切除 FGM/C ジェンダー 女性の身体 セクシュアリティ ポスト植民地 東南アジア アフリカ

### 1. 研究開始当初の背景

国際社会が女性器切除 (female genital mutilation/cutting: FGM/C) を人権と健康をめぐる国際的な問題としてみなしはじめたのは、スーダンの首都ハルツームの世界保健機構 (WHO) 事務局職員であったフラン・ホスケンによる『ホスケン・レポート *The Hosken Report: Genital and Sexual Mutilation of Females*』(1978年) がきっかけだったと考えられる。これ以降、世界保健機構を中心とした国連機関は FGM/C を女性に対する人権侵害と位置づけ、ゼロ・トレランス政策を推進している。これを受けてアフリカ各国では FGM/C を法的に禁止してきたが、「伝統」や「宗教」の名のもとに実践されており、時には禁止令の影響ゆえに秘密裏に実施されている地域もある。

国連機関を中心にした研究に対して、人類学者の多くは FGM/C を数ある身体変工の一つとしてみなし、創られた伝統もふくめて現地の共同体に根ざした慣行としてあつかってきた。Janice Boddy, *Wombs and alien spirits* (1989)、Esther K. Hicks, *Infibulation* (1996)、Homa Hoodfar, *Between Marriage and the Market* (1997)、Rogaia Mustafa Absharaf ed. *Female Circumcision* (2006) などアフリカ地域を中心にして多くの研究の蓄積がある。

1990年代以降には「普遍主義」対「文化相対主義」という対立図式を乗り越え、FGM/C をめぐる議論をポスト植民地主義的な文脈で読み解こうという動向がでてきた。例えばオビオマ・ナエメカは *Female Circumcision and the Politics of Knowledge* (2005) において、先進国の美容整形による性器手術は問題にならずアフリカにおける性器手術が身体を不完全なものにする「切除」として問題となるのには、そこに植民地主義と人種主義の非対称性があるからであると指摘している。こうした議論はシェル・ダンカンやボディなどの現地調査を行う人類学者らにも共有されてきている。

東南アジアにおける FGM/C はイスラム教徒の住民の多い地域を中心にして広く実践されている。しかしながら、研究開始当時この地域に関する学術的な調査や論文は非常に少なかった。インドネシアに関しては、Feillard and Marcoes, “Female circumcision in Indonesia” (1998) による歴史論文、インドネシア全土での「FGM」調査に関する報告書である Budiharsana et al, *Female circumcision in Indonesia* (2003) などがあり、マレーシアでは Isa et al, “The practice of female circumcision among Muslim in Kelantan, Malaysia” (1999)、Abdul Rashid et al, “The practice of female genital mutilation among the rural Malays in north Malaysia” (2009)、Abdul Rashid and Yufu Iguchi, “Female genital cutting in Malaysia: A mixed methods study” (2019) などの医学論文があった。これらの先行研究から東南アジアにおける FGM/C に関して以下が確認されていた。1) 当該地域における FGM/C はイスラム教との関連性が強い。2) 多くの人々は FGM/C がイスラム教の義務であると考えている。3) 多くのアフリカ諸国と異なり、東南アジアでは乳児のときに手術を行う。4) 切除ではなく包皮の切開などが主流で、WHO で定義されているカテゴリーにうまく適合しない。5) 伝統的な施術師 (産婆) から民間の診療所の医師へと施術者が変わってきている。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は FGM/C 実践の現状と人々の意識を調査することを通して、FGM/C をポスト植民地における女性の身体とセクシュアリティの支配に関する現代的な問題としてとらえなおすことである。FGM/C をめぐる議論は、普遍主義による女性の人権の保護か文化相対主義による伝統文化の擁護かという対立図式に回収されてきた。これに対して本研究では、ポスト植民地における女性の身体とセクシュアリティをめぐる問題として FGM/C をとらえなおすことで、この対立図式を超越することを目指している。換言すれば、近代医学、宗教言説、ナショナリズムの言説がどのように女性の身体とセクシュアリティをみているのかを FGM/C 問題を通して問うことである。本研究は、表面的には FGM/C に対して異なる立場を表明しているこれらの諸言説が、じつのところ「女性の身体への管理の増大」という観点を共有しているとみている。本研究では、このような共通性を FGM/C におけるマイナー地域とみなされる東南アジアに焦点を当てつつ、アフリカにおける最新の FGM/C 研究との比較を通して明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究の中核をなすのは、これまで調査が実施されてこなかった東南アジアにおいて、その実践の現状と人々の意識に関する量的調査と質的調査を敢行することである。各地において女性 600 名への量的調査、20 名程度への質的調査、伝統的施術者 10 名程度への聞き取り調査を計画した。候補地はカンボジア、ベトナム南部、タイ南部、インドネシア、フィリピン南部であった。研究体制は、代表者の井口が国際共同研究者である公衆衛生学教授アブドゥル・ラシド (RUMC&UCD Malaysia Campus) とシティ・ヌル・アフィカ (Universiti Sains Malaysia) とともにすべての調査地における調査研究を、各地の研究協力者とともに執り行う形式である。

東南アジアにおける状況の参照をなす最新の研究動向の探究としては、分担者である宮地を中心として、アフリカでの現状 (とりわけケニア)、オーストラリアなどにおけるアフリカ出身移民の FGM/C 状況、広義での FGM/C にあたる先進国での女性器の美容整形やルーティン的に実施される出産時の会陰切開についての聞き取りを計画した。

#### 4. 研究成果

本研究の2023年度末までの主要な研究成果としては、国際的に著名な査読誌における学術論文3本の出版、国際的に著名な出版社による著書の刊行、国際学会で成果報告11件があげられる。これ以外にも日本語による学会報告やワークショップ、一般向けのウェビナーなどを実施した。現在も調査結果をとりまとめ分析をする最中であり、国際学会での報告や学術論文の投稿の計画を実施しているところである。

本研究実施期間のうち2020年2月からのコロナ禍により現地での調査研究が計画通り進まないという事態があった。そのため当初の研究の中断や研究計画の変更をせざるをえず、結果として調査地を減らさざるをえなかった。東南アジアにおいては、カンボジア、ベトナム、タイ南部での調査が敢行できた。しかしながら、インドネシア、フィリピン南部については予備調査にとどまった。ただし、マレーシアにおけるベトナムやカンボジアのムスリムの移民によるFGM/Cの調査については聞き取り調査を進めることができた。

以下では、項目に従って、研究成果の詳細を述べる。

##### (1) 東南アジアにおける女性器切除の現状と人々の意識

今回の課題の前段階として、研究代表者は国際共同研究者であるラシドとともに2016年にマレーシアの農村において、605名の女性への量的調査、伝統的な施術者8名への聞き取り調査、女性グループと男性グループへのフォーカス・グループ・ディスカッションを実施した。この成果はラシドとの医学論文“Female Genital Cutting in Malaysia: A Mixed-Methods Study” *BMJ Open* (2019)と、社会科学系論文“The cultural meaning of ‘female genital mutilation’ in rural Malaysia: The female body and sexuality through the medical gaze” *Journal of Southeast Asian Studies* (2023)に掲載されている。2016年の調査は東南アジアの各地における本研究の調査の雛形をなすものである。研究方法の項目にある通り、本研究では東南アジアの各地（カンボジア、ベトナム、タイ南部）において女性600名への量的調査、20名程度への質的調査、伝統的施術者10名程度への聞き取り調査を行った。以下では時系列に従い成果を報告する。

2019年には、これまで学術的な調査が行われたことのないカンボジアのコンボン・チャムとベトナム南部アンギャン県のチャウドック市において予備的な調査を実施した。これらの二カ所は両国のマイノリティであるチャム人のムスリムの居住する地域である。この結果については研究代表者による国際学会での報告がある“Unrecognized practice or invented tradition?: Female Genital Cutting in Southeast Asia” 20th AP Conference (2022)。コロナ禍の影響により研究プロジェクトが中断したが、2022年度末には量的調査の回収が済み質的調査も実施した。ベトナムにおける量的調査の結果はラシドとアフィカが行い、結果は国際学会において報告された“The Practice of Female Genital Cutting Among the Muslim Cham Women in Vietnam” 20th AP Conference (2022)。マレーシアでの調査と共通してベトナムにおいても実施率が高く、人々はイスラムの義務であると信じていた。ベトナムでは医療化の傾向はほぼなく、伝統的産婆ではなく女性の伝統的割礼士が施術をおこなっていた。ベトナムの質的調査に関しては、共同研究者ラシドによる国際学会報告“The Challenges in Addressing Female Genital Cutting in Vietnam” 21st AP Conference (2023)と研究代表者による“Female Body in Modern Medicine, Female Body in Traditional Society: Female Genital Cutting in Southeast Asia” 21st AP Conference (2023)がある。

南部タイについては、2022年度にナラティワートでの研究協力者を獲得することができた。現地における自然災害などがあり現地での聞き取り調査の計画が中断したものの、2023年10月に質的調査を敢行することができた。タイ南部のナラティワートは隣接するマレーシアのクランタン州と言語や文化の共通性がある。ただしFGM/Cの医療化は進んでおらず、伝統的な産婆による施術がメインである。興味深い点はお供えを使った儀礼があることであった。

量的調査と質的調査の詳細な解析は現在進行中であるが、中間的な結果として、研究代表者による国際学会での報告“Female Body in Modern Medicine, Female Body in Traditional Society: Female Genital Cutting in Southeast Asia” 21st AP Conference (2023)がある。この報告は、カンボジア、ベトナム、タイ南部での調査を総合したものである。文化的な意味の変化という観点から、暫定的な結論として以下の三つあげられる。1) 伝統的施術者から医療者による施術への変化の中で、誕生儀礼のなかにあったであろうFGM/Cが医学的なまなざしの中に位置付けられるようになった。しかしながら、この変化は医療化の進むマレーシアやインドネシアではみられるものの、医療化が進んでいないカンボジア、ベトナム、タイ南部などではみられない。2) 東南アジアの多くの地域においてFGM/Cは日常に埋め込まれた無意識的な実践であるといえる。多くの人々はアフリカにおける実践について知らず、それが国際問題となっていることも知らない。その意味で、東南アジアのFGM/CはグローバルなFGM/C言説の外部にあるといえる。ただし、マレーシアでは2018年に国連において問題となったことが現地でも知られるようになり、グローバルな言説に接合し始めたといえる。3) FGM/Cは、これまで現地における宗教的なコンテクストにおいて語られていたが、徐々に医学用語によって語られるようになっている。宗教的なアイデンティティとしてだけでなく、衛生概念やセクシュアリティの抑制といった近代医学の概念との関連でFGM/Cが理解されていることがあとづけられる。

インドネシアに関しては2019年度にインドネシアの国立イスラム大学との共同調査を模索したが、コロナ禍もあり実施に至らなかった。2022年度以降はガジャマダ大学の公衆衛生学の研

研究者やイスラム・フェミニズムの研究者らに協力を打診し、現地での研究協力体制の構築を築いてきた。ただし、時間と研究費の制約で調査までこぎつくことができなかった。フィリピン南部についても同様に現地 NGO と連絡をとりあっていたものの、コロナ禍のため調査実施には至らなかった。

しかしながら、マレーシアにおけるベトナムやカンボジアのチャム系移民による FGM/C の実施に関して、国際共同研究者であるアフィカを中心に聞き取りが進んだ。国際学会での報告としてはアフィカによる “Cambodian Immigrant Muslim Women in Malaysia and Female Genital Cutting: The Persistence of the Practice” 21st AP Conference (2023)がある。移民のアイデンティティとマレーシアにおけるマジョリティであるマレー社会への同化の観点から FGM/C が実施されていることがわかる。東南アジア内における移民コミュニティという視点は、FGM/C に関する人々の意識の変容において重要な意味をもっていると考えられる。東南アジア域内における環流移民も多くあり、各国での経験が人々の意識に変化を与えうるのではないかという新しい視点を研究チーム全体にもたらしした。

#### (2) 近代における女性身体管理統制という観点からの理論的接合

本研究は、「伝統」対「人権」の隘路に陥っている FGM/C 論争を、近代における女性身体管理統制という観点から再考することで超克することをめざしている。たとえば研究代表者は国際学会において以下のような報告をしている。“Anatomical Gaze, Lack of Integrity, Bodily Inscription: Representations on “Female Genital Mutilation” in Malaysia” AAS in Asia (2019), “The Medicalization of Female Genital Cutting in Malaysia: Its Meaning toward the Medical Discourse on the Female Body” 18th AP Conference (2020), “Reclaiming the Body: The experience of “mark” and the traumatic memory of female genital mutilation/cutting” ACSJ (2022)。

研究分担者の宮地も女性身体における管理統制という観点から、先進国の女性器の美容整形や日本におけるルーティン化した会陰切開について調査を進めた。多数の国際学会での報告があるが、例えば以下がある。“An interdisciplinary approach to women's bodies and self-determination on female genital “cutting”: cases of genital practices in Japan” 21st AP Conference (2023). “Women’s Health and “Culture”: Female Genital Cutting in Australia” 20th AP Conference (2022). “Who has a right of decision making on her body? : Controversy between Female Circumcision (FC) and Female Genital Cosmetic Surgery (FGCS)” 18th (2020).

#### (3) アフリカにおける FGM/C 研究との接合

最新のアフリカにおける FGM/C 研究の成果としては、研究分担者である宮地が編者の 1 人を務めている著書『グローバル・ディスコースと女性の身体：アフリカの女性器切除とローカル社会の多様性』（晃洋書房、2021 年）があげられる。

スプリングァー社から 2023 年に刊行された英語版 *Female Genital Mutilation/Cutting: Global Zero Tolerance Policy and Diverse Responses from African and Asian Local Communities* ではアフリカにおける FGM/C 研究と東南アジアにおける FGM/C 研究との接合がなされたといえる。編者である宮地は、“Chapter 4: Transformation and Continuation: FGC Among the Gusii People in Western Kenya”、研究代表者である井口はラシドやアフィカとの共著で二つの章を担当した(Chapter 8: Female Genital Cutting in Asia: The Case of Malaysia, Chapter 9: Female Genital Cutting and the “Medical Gaze” in Southeast Asia)。

#### (4) 研究者ネットワーク形成と現地社会への還元

本研究では、東南アジアとアフリカにおける FGM/C 研究に携わる国内外の研究者とのネットワークを形成した。分担者の宮地を通じてアフリカの FGM/C 研究者と強固な関係を築くことができ、これは上記のスプリングァー社からの著書への貢献へとつながった。また、さまざまな専門分野の研究者らとのつながりも構築しまた強化できた。

研究代表者、分担者、国際共同研究者は、日本の病院や医学部女性器切除問題についての講演や、イギリスを活動拠点とするマレーシア出身の医師集団主催のウェビナー産科を行い、医療に携わる人々に対して FGM/C の情報提供を行った。

調査地においては、現地のムスリム協会などとも良好な関係を築き、現地社会に有益な女性の人権や健康に関する (FGM/C を含めた) 情報を提供するプログラムの開発の可能性を模索することができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 5件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Iguchi Yufu, Rashid Abdul	4. 巻 53
2. 論文標題 The cultural meaning of 'female genital mutilation' in rural Malaysia: The female body and sexuality through the medical gaze	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 709 ~ 732
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S002246342200087X	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Rashid Abdul, Iguchi Yufu, Afiqah Siti Nur	4. 巻 17
2. 論文標題 Medicalization of female genital cutting in Malaysia: A mixed methods study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS Medicine	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pmed.1003303	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Rashid Abdul, Iguchi Yufu	4. 巻 9
2. 論文標題 Female genital cutting in Malaysia: a mixed-methods study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e025078 ~ e025078
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-025078	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 井口 由布、アブドゥル・ラシド	4. 巻 7
2. 論文標題 「女性器切除」と言説の政治	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報カルチュラル・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 27 ~ 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32237/arcs.7.0_27	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 井口 由布、ラシド アブドゥル	4. 巻 57
2. 論文標題 セクシュアリティと女性の身体からみるマレーシアにおける「女性器切除」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 166 ~ 189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/tak.57.2_166	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計23件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 11件)

1. 発表者名 井口由布
2. 発表標題 グローバルな女性器切除言説と認識されない現地実践：国家医療、文化、女性の身体
3. 学会等名 ポスト植民地における女性の身体：東南アジアの女性器切除から考える 東京外国語大学海外事情研究所 研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 Female Body in Modern Medicine, Female Body in Traditional Society: Female Genital Cutting in Southeast Asia
3. 学会等名 Ways forward towards the Abandonment of FGM/C, University of Technology Sydney (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 井口由布
2. 発表標題 東南アジアにおける女性器切除：女性の身体とセクシュアリティ
3. 学会等名 現代アジアにおける生殖テクノロジーと養育、国立民族博物館 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kaori Miyachi
2. 発表標題 Medicalization and transformation of FGM/C or female circumcision in Kenya
3. 学会等名 Ways forward towards the Abandonment of FGM/C, University of Technology Sydney
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 井口由布
2. 発表標題 グローバルな女性器切除言説と認識されない現地実践：国家医療、文化、女性の身体
3. 学会等名 ポスト植民地における女性の身体：東南アジアの女性器切除から考える 東京外国語大学海外事情研究所 研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 Female Body in Modern Medicine, Female Body in Traditional Society: Female Genital Cutting in Southeast Asia
3. 学会等名 Ways forward towards the Abandonment of FGM/C, Sydney University (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 Female Body in Modern Medicine, Female Body in Traditional Society: Female Genital Cutting in Southeast Asia (Asia Pacific Conference)
3. 学会等名 Asia Pacific Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井口由布
2. 発表標題 東南アジアにおける女性器切除：女性の身体とセクシュアリティ
3. 学会等名 現代アジアにおける生殖テクノロジーと養育、国立民族博物館（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kaori Miyachi
2. 発表標題 Medicalization and transformation of FGM/C or female circumcision in Kenya
3. 学会等名 Ways forward towards the Abandonment of FGM/C, Sydney University
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Kaori Miyachi
2. 発表標題 An interdisciplinary approach to women's bodies and self-determination on female genital "cutting": The cases of female genital practices in Japan
3. 学会等名 Asia Pacific Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 Unrecognized practice or invented tradition? Female Genital Cutting in Southeast Asia
3. 学会等名 20th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 Kaori Miyachi
2. 発表標題 Women's Health and "Culture": Female Genital Cutting in Australia
3. 学会等名 20th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 The experience of "mark" and the traumatic memory of female genital mutilation/cutting
3. 学会等名 The Asian Studies Conference Japan 2022 (ASCJ) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 The Medicalization of Female Genital Cutting in Malaysia: Its Meaning toward the Medical Discourse on the Female Body
3. 学会等名 18th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kaori Miyachi
2. 発表標題 Who has a right of decision making on her body? : Controversy between Female Circumcision (FC) and Female Genital Cosmetic Surgery (FGCS)
3. 学会等名 18th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 Anatomical Gaze, Lack of Integrity, Bodily Inscription: Representations on “Female Genital Mutilation” in Malaysia
3. 学会等名 AAS in Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井口由布
2. 発表標題 身体のパリティクスと「女性器切除」 マレーシアの事例から考える
3. 学会等名 東南アジア学会 研究集会 九州地区特別例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 Cultural Meanings of the Female Body in Malaysia
3. 学会等名 17th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大形里美
2. 発表標題 インドネシアにおける女子割礼 リベラル派と保守派の間で
3. 学会等名 東南アジア学会 研究集会 九州地区特別例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大形里美
2. 発表標題 インドネシアにおける女子割礼：政策の変化と現状
3. 学会等名 日本インドネシア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satomi Ohgata
2. 発表標題 Current state and the transformation of female circumcision in Indonesia
3. 学会等名 17th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaori Miyachi
2. 発表標題 Why anti-female genital mutilation/cutting activities are not changing people 's attitudes?: The case from western part of Kenya
3. 学会等名 17th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮地歌織
2. 発表標題 変容する女子割礼 / 女性性器切除：ケニア西部の農村における事例より」
3. 学会等名 東南アジア学会 研究集会 九州地区特別例会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Kyoko Nakamura, Kaori Miyachi, Yukio Miyawaki, Makiko Toda, Editors	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 193
3. 書名 Female Genital Mutilation/Cutting	

1. 著者名 宮脇 幸生、戸田 真紀子、中村 香子、宮地 歌織	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 184
3. 書名 グローバル・ディスコースと女性の身体：アフリカの女性器切除とローカル社会の多様性	

1. 著者名 Kaori Miyachi	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 17
3. 書名 Transformation and Continuation: FGC Among the Gusii People in Western Kenya	

1. 著者名 Yufu Iguchi, Abdul Rashid, Siti Nur Afiqah	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 14
3. 書名 Female Genital Cutting and the "Medical Gaze" in Southeast Asia	

1. 著者名 Abdul Rashid, Yufu Iguchi, Siti Nur Afiah	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 27
3. 書名 Female Genital Cutting in Asia: The Case of Malaysia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮地 歌織 (Miyachi Kaori) (40547999)	佐賀大学・芸術地域デザイン学部・客員研究員  (17201)	
研究分担者	大形 里美 (Ogata Satomi) (30330955)	九州国際大学・現代ビジネス学部・教授  (37113)	削除：2021年7月30日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 ポスト植民地における女性の身体 The Female Body in Post-colonies	開催年 2024年～2024年
------------------------------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
マレーシア	RCSI&UCD Malaysia Campus			
インドネシア	State Islamic University			
ケニア	University of Nairobi			
タイ	Raja Park Institute			
オーストラリア	University of Technology Sydney			